

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 Mini Maker Faire開催費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

ものづくり産業の盛んな岐阜県では、製品の差別化や高付加価値化などの課題に直面している。この課題解決のためには、これまでとは異なったものづくりに対するアプローチが求められており、県成長・雇用成長戦略では「第4次産業革命推進プロジェクト」への取組が始まっている。

近年、3Dプリンタ等のデジタル工作機器の普及に伴い、個人の新たなアイデアを簡単に形にできる時代となった。I AMASが平成22年に誘致して始まった本イベントでは、IoTを始めとする様々な新しいアイデアを盛り込んだ作品が展示され、大人から子供までもものづくりの原点に立ち返り楽しむとともに、新製品・サービス創出のヒントを得たり、技術者同士のネットワークを広げる場として、また次世代のものづくりの担い手育成につながる取組として、地元産業界から高い評価を受けている。世界200都市以上で開催されている本イベントだが、国内では東京・京都・大垣・山口・つくばの5都市のみで、極めて希少性が高く、回数を重ねるごとに全国から出展者や参加者が増加しており、来場者の評価も高い。

(2) 事業内容

「Maker」(メイカー)と呼ばれる、ものづくりを楽しむ人たちが全国から集い、電子工作やロボット、クラフト、電子楽器、サイエンス工作などに関する展示や発表を行い、相互に交流することでものづくりの楽しさを共有するイベントを開催する。新しいものづくりのあり方の研究やIoTなど先端技術の県内普及に取り組むソフトピアエリアの象徴的イベントとして、県内ものづくり関係機関と連携して県内産業振興と人材育成に寄与し、県成長・雇用戦略に貢献する。

○開催概要

- ・時期：令和4年12月頃(土日2日間を予定)
- ・場所：ソフトピアジャパンセンター
- ・内容：Makerによる展示、ワークショップ、トークイベント等の開催

(3) 県負担・補助率の考え方

本学を中心に、大垣市、大垣商工会議所、(一社)岐阜県工業会、(公財)ソフトピアジャパンなどと実行委員会を組織して運営。地元企業等から協賛金及び出展料等を集め、5,493千円程度の規模でのイベントとする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	1,000	実行委員会負担金
合計	1,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

隔年開催であるアートイベント「岐阜おおがきビエンナーレ」と、ものづくりイベント「Maker Faire」を毎年交互に開催していく。
ひきつづき、新しいものづくりのあり方を普及啓発していくため、県内経済界等と連携しながらイベントを開催していく。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

新しいものづくりの祭典「Maker Faire」の開催により、県内ものづくり企業の社員や就業前の若者がものづくりの楽しさを再発見し、ものづくりの能力を磨くとともに、IAMASが取り組む先進的なものづくりの研究成果をPRする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①来場者数（人）	—	650	8,500	8,500	—	8%
②出店応募数 （組）	—	43	180	180	—	4%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>本学が中心となった「Ogaki Mini Maker Faire実行委員会」を立ち上げ、県及び大垣市による負担金のほか、関係団体からの助成金、民間企業からの協賛金、参加者からの出展料等によりイベントを開催。</p> <p>ソフトピアジャパン・センタービルを会場に、12月5日（土）、6日（日）の2日間で約650人の来場者を集めた。新型コロナウイルス感染症対策として、出展者数及び来場者数を制限するとともに、物理会場とオンライン会場を組み合わせたハイブリット開催という新たな手法に挑戦し、新しいものづくりネットワークづくりに寄与するとともに、本学、ソフトピアジャパン及び大垣市を広くPRすることができた。</p> <p>これらの実績により、ソフトピアジャパンにおける恒例イベントとして定着している。</p>
令和 3 年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	大垣市におけるモノづくりイベントとして、隔年で開催されるアートイベント「岐阜おおがきビエンナーレ」と同様、県民、大垣市民に親しまれている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	ソフトピアジャパンで開催するイベントとしては、抜群の集客力を誇るイベントであり、本学の取り組みや岐阜県の産業等を広く県内外にPRしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	実行委員会形式での開催により、県費のほか、企業協賛や出展料等外部資金を活用することができ、県費を節約した開催を心掛けている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 事業実施においては各構成員の協力が不可欠であり、また出店料の徴収及び企業協賛金の有効活用等を行うために、やむを得ず実行委員会形式を採用している。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか Ogaki Mini Maker Faireの開催により、ものづくりの楽しさを県内に普及啓発していくことを通じて、県内産業振興・人材育成に貢献する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】